

令和7年度

学 力 向 上 プ ラ ン
【後期】

上尾市立大石中学校

目 次

上尾市立大石中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」	1
1 学力調査結果の概要	
（１）上尾市立小・中学校学力調査（令和７年１月実施）	2
【１～２年：国語、数学、英語】	
（２）全国学力・学習状況調査（令和７年４月実施）	6
【３年：国語、数学】	
（３）埼玉県学力・学習状況調査（令和７年４、５月実施）	7
【１年：国語、数学】	
【２～３年：国語、数学、英語】	
2 学力向上を図る取組	
（１）各教科の授業における取組	10
（２）教育活動全体を通じた取組	11
本校の特色ある取組	
家庭教育との連携	

上尾市立大石中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 自ら学ぶ生徒
- 進んで身心を鍛える生徒

学校課題研究主題

「人間関係をよりよく形成するための協働的な学びの充実」
 ー大石中学校区一貫教育を通してー

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R6 上尾市立小・中学校学力調査
・国語、算数、理科ともに平均正答率は全国平均を上回っている。 ・国語では、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかを問う問題の正答率が低い。 ・算数では、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかを問う問題の正答率が低い。 ・理科では、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかを問う問題の正答率が低い。	・学力レベルの平均は、国語が2レベル、数学が2～3レベル、英語が2レベル伸びている。 ・国語、数学、英語ともに、1・2年生においては、学力を伸ばした生徒の割合は埼玉県の平均を上回っている。 ・学習方略のプランニング方略と認知的方略、努力調整方略の項目の数値、非認知能力のやり抜く力・向社会性・勤勉性の項目の数値が埼玉県と比較して高い。 ・学習方略の柔軟的方略と作業方略の項目の数値、非認知能力の自己効力感の項目の数値が埼玉県と比較して同等である。	・国語では、話すこと・聞くこと、読むことに関する問題の正答率が全国平均を上回っている。 ・数学では、数と式・図形・関数のすべての領域で平均正答率が全国平均を上回っている。 ・英語では、読むことに関する問題の正答率が全国平均を下回っている。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①知識を確実に習得し、既習事項と関連付けながら活用できる力。 ②基礎的・基本的な語彙力。	③未知の問題に対し、その解決のための方法を考える力。 ④自らの考えを、理由や根拠をもとに表現する力。	⑤主体的に学習に取り組み、自身の課題解決に向けて粘り強く取り組む力。 ⑥自らの学習を見通したり、振り返ったりする力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○学習意欲を高め、基礎基本を確実に定着させる展開の工夫、改善。 ○身に付けた知識を相互に関連付けて深く理解させたり、知識を他の学習や生活の場面で活用させたりする発問や活動の工夫、改善。	○課題解決型の学習課題設定を通して、その解決方法の計画や検証から思考・判断させる工夫、改善。 ○協働的な学びを通して、目的や状況に応じて、理由や根拠をもとに意見交換させ、考えを深めて視野を広げさせる工夫、改善。	○主体的に学びに向かう仕掛け作りを意識した課題設定によって、一人一人の学びに向かう力を高める工夫、改善。 ○課題を明確化し、振り返りの時間を確保することで、本時の学習の整理を行う工夫、改善。

本校の特色ある取組

- ICTを活用した学習指導の推進。
- 小中連携事業による中学校区内の小学校との情報交換と共通事項の設定。
- 学校課題研究を通じた授業改善。

家庭教育との連携

- シラバス等による情報公開。
- さくら連絡網の活用。
- 家庭学習の推進。
- アンケートの実施。

1 学力調査結果の概要

(1) 上尾市立小・中学校学力調査(令和7年1月実施)

1年(令和7年度2年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○「基礎」は7.9ポイント、「活用」は10.3ポイント目標値を上回っており、基礎的な学力は定着している。 ●全ての問題区分において、校内平均正答率が全国平均正答率を上回っているが、「我が国の言語文化に関する事項」のみ上尾市の平均を下回った。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	文法事項の反復練習によって基礎基本が定着してきていること、課題作文の活動を多く取り入れていることで記述力が身に付いていることが考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
国語科の重点目標	・文法事項の基礎・基本の定着をはかる。 ・言葉がもつよさや言語文化の理解を目指す。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	文法・語句に関する事項	単語について理解している。	学習プリントを活用して、文法事項を復習する機会を設ける。
②	調べたことをもとにレポートを書く	情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	説明的文章を題材に、目的に応じて自分の考えを相手に伝えるように表現を工夫して書く活動を設定する。

1年(令和7年度2年)【数学】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≡	○「基礎」は目標値を2.3ポイント、「活用」は3.9ポイント上回っている。 ●ほぼ全ての問題区分において、校内平均正答率が全国平均正答率を上回っているが、「領域」の「図形」、「観点別」の「知識・技能」「解答形式」の「選択」について上尾市の平均を下回った。
基礎・活用	基礎	≡	
	活用	≡	
観点	知識・技能	△	要因分析 数学に対する苦手意識を克服するために基礎・基本の徹底や週末の復習プリント、放課後の学習会を行っている成果が見られる反面、数学の必要性や興味を惹きつける工夫に課題があり、学力層が2つに分かれていると考えられる。
	思考・判断・表現	△	
	主体的に学習に取り組む態度	△	
数学科の重点目標	・基礎・基本の内容を復習する機会を計画的に確保し、定期的な小テストを活用して定着を図る。 ・知識・技能の定着を図るため、放課後の学習会や反復練習の機会を増やす。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	1次方程式	比例式を解くことができる	小学校で学習している比の値や比が等しいことを、学習プリントを活用して、復習をする機会を設ける。
②	比例・反比例	事象から数量の関係を見出し、関係についての的確に表現できる	身近な課題や小学校で扱っている比例や反比例の関係が成り立つものを通して、繰り返しyをxの関係で表せるよう演習を行う。

評価について

△	目標値を上回る
≡	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

1年(令和7年度2年)【英語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		≒	○校内平均正答率は、ほぼ全ての問題区分において、全国、上尾市を上回っている。「領域」の「読むこと」、「解答形式」の「選択」のみ全国平均正答率を下回っている。 ●「領域」の「書くこと」、「解答形式」の「短答」以外の区分で、目標値を下回っている。
基礎・活用	基礎	≒	
	活用	≒	
観点	知識・技能	≒	要因分析
	思考・判断・表現	≒	単語や文法など基本的な力は身に付いている。音読を中心とする「読む活動」を行ってきたので、英文を読み取る力も高まっている。一方で、リスニングの機会が少ない事により、まとまりのある英文を聞いて、大事な情報を聞き取る力に課題が見られる。
	主体的に学習に取り組む態度	≒	
英語科の重点目標	・まとまりのある英文を聞いて、大事な部分を聞き取る力を高める。 ・表現する力を更に高めるために、ペアでの会話練習や自分の考えや気持ちを書く活動を取り入れていく。		
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	聞くこと	まとまりのある英文を聞く	5W1Hを意識させることと、会話全体の内容を理解できるようにさせる。
②	書くこと	長文の読み取り、返信	習った文法を用いて、自分の考えを表現する活動を積み重ねていく。

評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≒	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

1 学力調査結果の概要

(1)上尾市立小・中学校学力調査(令和7年1月実施)

2年(令和7年度3年)【国語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○「基礎」は9. 1ポイント、「活用」は7. 4ポイント目標値を上回っており、基礎的な学力は定着している。
基礎・活用	基礎	△	●ほぼ全ての項目で、校内正答率が全国平均正答率を上回っているが、「領域」の「情報の扱い方に関する事項」については、3. 1ポイント上尾市の平均正答率を下回っている。
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	日々の学習の中で、資料を読み込んで、理由を説明したり、推測して相手に伝えたりする課題に取り組む機会が少ないと考えられる。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
国語科の重点目標	・語彙を増やし、その知識を生かし文章を書く力の育成。 ・漢字や文法事項等の既習知識を活用し、文章を書く力の育成。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	調べたことをもとにレポートを書く	情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	説明的文章を題材に、自分の考えを書く課題を設定する。
②	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。	条件作文や課題作文で指定された条件に沿って文章を構成、添削をすることを目的に課題を設定する。

2年(令和7年度3年)【数学】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		△	○「基礎」は9.4ポイント、「活用」は9.8ポイント目標値を上回っており、基礎的な学力は定着している。全ての項目で、校内正答率が全国平均正答率、上尾市平均正答率を上回っている。 ●「領域」の「図形」については、2.2ポイント上尾市の平均正答率を上回っているが、相対的に見れば他項目に比べて伸びが少ない。
基礎・活用	基礎	△	
	活用	△	
観点	知識・技能	△	要因分析
	思考・判断・表現	△	小テストなどを通して、計算力を高める取組を行っているので、基礎的な学力は定着していると考えられる。活用する力が劣っている。
	主体的に学習に取り組む態度	△	
数学科の重点目標	・基礎・基本の内容を復習する機会を計画的に確保し、定期的な小テストを活用して定着を図る。 ・事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し、処理したりする機会を多く設ける。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	連立方程式	解く過程を振り返り、事象に即して解釈し数学的に説明することができる。	過程を導かせたうえで、他人に説明をする。また、他人が解いた過程を理解する機会を設ける。
②	1次関数	1次関数のグラフに表して、その交点の座標を読み取り、値を求める。	2つのグラフの交点に着目することについて記述させる取組を行う。

評価について

△	目標値を上回る
≒	目標値と同程度
▼	目標値を下回る

※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。

2年(令和7年度3年)【英語】

項目		評価	考察(○成果 ●課題)
教科全体		▼	○「観点」の「主体的に学習に取り組む態度」は10.40ポイント全国平均正答率よりも高く、意欲的に学習に取り組む姿勢が見られる。 ●「基礎」は5.0ポイント、「活用」は8.0ポイント目標値を下回っており、基礎的な学力の定着にまだ課題が見られる。
基礎・活用	基礎	≡	
	活用	▼	
観点	知識・技能	▼	要因分析 日々の学習の中で、文法や語彙の重要性を認識している生徒が少なく、実際に生徒がその知識を活用する場面が少なかったためだと考える。
	思考・判断・表現	≡	
	主体的に学習に取り組む態度	≡	
英語科の重点目標	・語彙・語法を活用した授業づくり。 ・さまざまな英文に触れることができる、読解を重視した授業づくり。		
重点的に取り組む学習内容			
課題	問題内容	出題のねらい	課題に対する手立て
①	長文の読み取り	メールを読み、その要点を捉えて自分の考えを書いている。	要点を捉えて読解する経験を積み重ねていく。
②	3文以上の英作文	自由な時間に好きなことについてまとめた内容で紹介する英文を、相手に伝えるように書いている。	習った文法を用いて、自分の考えを表現する活動を積み重ねていく。

評価について	△	目標値を上回る	※目標値とは、学習指導要領に示された内容について、「出題形式」や「解答形式」の特性をもとに、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したものです。
	≡	目標値と同程度	
	▼	目標値を下回る	

(2) 全国学力・学習状況調査(令和7年4月実施)

国語

考察(問題と結果の分析)

・全体の平均正答率は56ポイント、埼玉県平均は55ポイントとなっており、1ポイント上回っている。しかし「言葉の特徴や使い方に関する事項」は0.5ポイント下回っている。「しきりと」の意味として適切なものを選択する」という語彙を聞かれる問題は県平均を下回っている。

課題の要因分析

・文章から筆者の主張や要旨をとらえたり、登場人物の心情を読み取ったりすることは比較的できるが、語句自体を理解し、それを適切に使い、表現する力が不足していると考えられる。文章を読む際に、わからない語句を辞書で調べる習慣づけを授業中に行い、適切に用いて、自分の考えを表現する力をつけさせたい。

数学

考察(問題と結果の分析)

・全体的には全国平均を上回っている。
・一次関数について、「変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることが」全国の平均正答率を下回っている。

課題の要因分析

・変化の割合と増加量をリンクさせて考察する力が不足していると考えられる。授業では、一問一答形式のような、その問題単体で考えるのではなく、既習事項の内容と関連付けるなどして考えさせたい。

理科

考察(問題と結果の分析)

・粒子を柱とする領域において、「似通っている二つの物質についての2人の発表をもとに、探求の過程における振り返りを考察して記述すること」について、全国正答率を2ポイント下回っている。
・エネルギーを柱とする領域において、「設定した仮説が正しい場合の、実験結果を予想すること」について全国正答率を2ポイント下回っている。

課題の要因分析

・領域単元は違うものの、提示されている仮説や探求の過程をもとに、求められている事柄を考察し、文章化することができていないため、授業では粒子・エネルギー分野についての知識技能を身に付け、正しい知識をもとに自らの考えを文章化させる活動を増やしたい。

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和7年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

国語

学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
1 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力
	校内	8-B			R7数値	3.7	3.8	3.5	4.0	3.9	3.4	3.1
	県	8-C			伸び +or-							
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) 学習方略と非認知能力の項目において、ほぼすべてで県と同等以上ではあるが、作業方略の項目のみ、県よりも0.1下回っている。平均正答率は、県平均・上尾市平均と比べ「教科の領域等」「評価の観点」「問題形式」のすべてにおいて上回っている。しかし、その中でも「教科の領域等」における「話すこと・聞くこと・読むこと」、「評価の観点」における「知識・技能」、「問題形式」では「短答式」および「記述式」の問題での正答率が低い。 2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) 生徒の語彙や語句を適切に使う力の習得、それを用いて表現する活動を増やし、「知識・技能」の資質・能力を向上させ、それを活用する場を多く設定することが、伸びにつながると思われることから、語句の習得のために辞書等を使用して、語句の意味を調べたり、それに関連する語句を調べる活動やそれを用いて短文を作成したり、文章にしたりする活動を取り入れていきたい。											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
2 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
	校内	8-A	2	8-C	R7数値	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8	3.2	4.0
	県	8-C	1	7-A	伸び +or-	-0.1	-0.1	0.0	0.0	-0.2	-0.2	0.0
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) 昨年度から学力レベルの伸びは2である。学習方略と非認知能力については全ての項目で県とほぼ同等かやや高いレベルである。一方で昨年からの変化量で見ると、作業方略・認知的方略・内社会性以外の項目は全てマイナスとなっている。全ての教科の領域等、評価の観点、問題形式で平均正答率は埼玉県平均・上尾市平均を上回っている。問題別に見ると、「自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考える」項目が埼玉県平均より3.8ポイント低い。 2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) 授業の中で問題形式の演習だけでなく、「自分の考えを明確にする」「根拠を意識する」「話の構成を意識する」といった活動を増やし、「思考力・判断力・表現力」を育成していく事が今後の伸びにつながると思われる。											
学年	学力レベル				学習方略					非認知能力		
3 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
	校内	9-C	2	8-C	R7数値	3.8	3.6	3.7	4.0	3.7	3.3	3.8
	県	8-A	2	8-B	伸び +or-	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.2	-0.1	-0.1
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする)) 昨年度から学力レベルの伸びは2である。学習方略、および非認知能力に関しても県平均よりすべて高いレベルが出ている。昨年度からの変化をみると非認知能力が自己効力感、勤勉性ともに下がっている。 問題ごとの分類、区分集計結果を見ても領域、評価の観点、問題形式すべて県の平均を上回っている。設問ごとにとみると、漢字、文法等語彙に関する箇所が県平均を下回っている。 2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする) 県平均と比較したときに記述式の設問の正答率が本校は高く出ている。それに対し、文脈に即して漢字を正しく読む(-2ポイント)、書体の違いによる筆順や点画の変化を理解する(-2.9ポイント)、敬語の種類と働きを理解し、正しく使う(-4.9ポイント)といった知識、技能にかかわる箇所に課題が見られる。今後の授業で演習や小テスト等でさらなる定着が図れるようにしていくことで今後の伸びにつながると思われる。											

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和7年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

数学

学年	学力レベル				学習方略						非認知能力		
1 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	やりぬく力	
	校内	7-C			R7数値	3.7	3.8	3.5	4.0	3.9	3.4	3.1	
	県	6-A			伸び +or-								
	「学力を伸ばした児童生徒の割合」は67.4でポイント、埼玉県の66.5ポイントを上回ったものの、上尾市の71.9ポイントを下回ってしまった。「主体的・対話的で深い学びの実施」「学習方略」「非認知能力」の数字はほとんどの項目で埼玉県、上尾市の数字を上回っているが、唯一「作業方略」の数字だけは埼玉県の数字を下回った。												
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)													
「問題の概要」を見てみると、「場合の数」「縮図」「度数分布表」「データ」などの問題に強く、資料や統計を使った問題に強い。また、線対称・点対称の問題にも強い。逆に、「文章題」や「比例・反比例」、さらに問題の「困難度レベル」が高くなるほど、埼玉県・上尾市を下回る結果となった。このように見てみると、多くの生徒たちは基礎・基本の定着が図られているようなので、授業中、与えられた課題が終わった生徒にはワークに取り組ませるなど、できるだけ多くの問題を考えさせる機会を与えたい。													
学年	学力レベル				学習方略						非認知能力		
2 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性	
	校内	7-A	3	6-A	R7数値	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8	3.2	4.0	
	県	7-A	4	6-B	伸び +or-	-0.1	-0.1	0.0	0.0	-0.2	-0.2	0.0	
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))												
昨年度から学力レベルは3伸びている。県平均の正答率が51.5ポイントに対し本校の正答率が54.8であることから昨年度に継続して興味をもって学習できていることが読み取れる。教科の領域、問題形式ともに全領域で埼玉県・上尾市の数値を上回っているが『データの活用』の区分での正答率が市平均を0.7ポイント下回っているため2学年における系統学習に向けて計画的に指導計画を立てる。													
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)													
『主体的・対話的で深い学びの実施』の項目において、県平均3.9ポイントに対し0.2ポイント上回る4.1ポイントだったことから授業内での協働的な学び場面の必要性を実感できる。問題別に見ると『データの活用』の学習時間の確保が十分にできていなかったことが反省点として挙げられるため生徒の活動を中心とした学習計画の見直しを随時行っていく。													
学年	学力レベル				学習方略						非認知能力		
3 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性	
	校内	8-A	2	7-A	R7数値	3.8	3.6	3.7	4.0	3.7	3.3	3.8	
	県	8-B	2	8-C	伸び +or-	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	-0.1	-0.1	
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))												
昨年度から学力レベルは2伸びている。学力を伸ばした生徒の割合も県平均63.8ポイントに対して本校は66.8ポイントと上回っている。学習方略と非認知能力については県平均と同等レベルであるが、伸びがほぼ変化がない。													
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)													
全体的に正答率は県平均を全分類で上回っている。中でも困難度が高い問題の無回答率が大きく下回っている。選択式や短答式の問題だけでなく、記述式で答える活動を積極的に取り入れている成果だと思われるので、引き続き継続していく。													

(3)埼玉県学力・学習状況調査(令和7年4、5月実施)

※主な参考資料 帳票09、40

英語

学年	学力レベル				学習方略						非認知能力	
2 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会的性
	校内	9-B			R7数値	3.7	3.7	3.6	3.9	3.8	3.2	4.0
	県	9-C			伸び +or-	-0.1	-0.1	0.0	0.0	-0.2	-0.2	0.0
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))											
	全領域・問題形式において県平均正答率・市平均正答率を上回っている。特に「話すこと」の領域において県平均正答率を5.7ポイント上回っており、普段の授業でフリートークを常活動で行っていることで力をつけてきたと思われる。学習方略と非認知能力においては全ての項目で県と同等もしくはやや高いレベルである。											
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)												
「読むこと」の領域においては県平均を3.6ポイント上回るにとどまったので、読解力を深める授業を計画的に行っていきたい。また、単語テストや文法理解、意味を考えながら読む習慣を普段の授業から行っていきたい。												
学年	学力レベル				学習方略						非認知能力	
3 年		R7レベル	昨年度からの 伸び(+or-)	R6レベル		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	勤勉性
	校内	10-B	2	9-A	R7数値	3.8	3.6	3.7	4.0	3.7	3.3	3.8
	県	10-C	3	9-C	伸び +or-	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	-0.1	-0.1
	1 考察(「学力レベルの伸び」と「学習方略・非認知能力」の関係性を分析(学力レベルは県との比較も参考にする))											
	学力レベルは昨年度から2段階上昇している。非認知能力は昨年度より0.1ポイント減少している。 情報を正確に聞き取る能力は、県平均正答率よりやや高かったが、自分について考えを述べる項目については、平均正答率が低い。特に社会的な話題について自分の考えを書くことが苦手である。											
2 成果と今後の取組(1の考察結果を踏まえること。また、帳票09の「問題の概要」「出題の趣旨」「評価の観点」等も参考にする)												
学習方略の方が非認知能力よりやや高い。認知的方略は昨年度より0.1ポイント上昇した。一方、非認知能力の自己効力感と勤勉性はともに0.1ポイント減少した。このことから、スモールステップを設定し、目標達成に向けて、粘り強く取り組ませる課題を設定する。基礎基本が定着していないので、語彙力や文法、語法について小テストなどを実施して、力をつけさせていく。												

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①知識を確実に習得し、既習事項と関連付けながら活用できる力。 ②基礎的・基本的な語彙力。	③未知の問題に対し、その解決のための方法を考える力。 ④自らの考えを、理由や根拠をもとに表現する力。	⑤主体的に学習に取り組み、自身の課題解決に向けて粘り強く取り組む力。 ⑥自らの学習を見通したり、振り返ったりする力。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	②④	②新出漢字や語句を正しく書き、その意味や用法を調べて理解する取組。 ④スピーチや作文を定期的に行い、自分の考えや感じたことを言葉にして表現する取組。	
社会	③⑥	③歴史など過去の事象を振り返りながら、現代社会の諸課題を捉える取組。 ⑥単元を貫く課題を設定したり、単元を通して追求し解決を図ったりする、単元を通して見通しをもたせる取組。	
数学	①④	①演習や小テストの実施による、基本的な技能を定着させる取組。 ④学習節ごとに学習評価シートを用いて学習内容を文章化させ、現在の理解内容を振り返る取組。	
理科	①④	①実験や技能テストを通して実験技能を習得するとともに、既習事項の振り返りを行い、より多くの知識を習得する取組。 ④レポート作成によって結果や既習事項から自らの考えを表現したり、ポートフォリオ作成によって学習内容をまとめたりする取組。	
外国語	②⑤	②新出単語・基本的文法事項を身に付けさせ、表現できる取組。 ⑤自己を振り返り、苦手分野を克服するために、4技能をバランスよく養う取組。	
音楽	①	①楽器演奏や歌唱の時間を毎時間取り入れ、技能の習得を図り、自分の考えや仲間の考えをもとに表現の工夫ができるような取組。	
美術	④	④鑑賞の授業やアイデアスケッチ、コンセプトシートの作成を通した、自分の考えを広げ、表現する取組。	
技術	④⑤	④授業支援アプリケーションや Web サービスを積極的に活用し、他者の考えを共有し自分の考えと比較しながら思考を広げられるようにする取組。 ⑤授業のねらいに対する自分の考えをまとめたり、学んだことを振り返ったりすることで、学習内容の理解を深め、次の学びにつなげる取組。	
家庭	③	③実習や制作をする場面を多く設定し、習得した知識・技能を活用して、話し合い活動を通じて課題解決する取組。	
保健体育	①④	①運動量を確保し、基本的な技能や動きを身に付けさせる取組。 ④グループ活動やペア活動を毎時間取り入れ、話し合いの中で、自己や仲間の課題や良い点を伝える取組。	
特別の教科 道徳	⑥	⑥学習を振り返る場面での問いかけを工夫し、自らの学習を見通したり、振り返ったりする力を育てる取組。 例) 新たに気が付いたことは何ですか？学習に近い経験をしましたか？	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○ＩＣＴ機器を活用した学習指導の推進	・一人一台のＩＣＴ端末を活用した授業の実施。 ・ＩＣＴを活用した多くの事例や課題の提示。 ・多くの人とつながって、自分の意見や考えを表現することができるコミュニケーションのためのツールとしての活用。 ・ＩＣＴの活用が目的にならない授業の確立。授業の目的のための手段であることを意識した授業作り。
○小中連携事業による中学校区内の小学校との情報交換と共通事項の設定	・小中連携職員研修、部活動交流、出前授業、生徒指導の情報交換等を通じた、計画的な９年間の継続性の高い指導。 ・中１ギャップを極力減らし、不登校生徒を増やさないための、中学校区での対応。 ・大石中学校区における、学力、体力、特別支援教育、生徒指導、教育相談、保健養護の分野での共通の取組。
○学校課題研究を通じた授業改善	・協働的な学びを通じた生徒の学習に対する主体性の向上。 ・表現力を高める手立てとしての、ＩＣＴ活用。
家庭教育との連携	
○シラバス等による情報公開	・各教科のシラバス（指導の方針、評価、年間指導計画）の学校ホームページへの掲載。 ・三者面談、保護者会、公開授業の実施。
○さくら連絡網の活用	・欠席生徒への担任からの連絡、翌日の予定の確認、学校からのお便りの配信等、本人・保護者の安心できる連絡体制。
○家庭学習の推進	・自主学習ノートによる家庭学習習慣の確立。 ・Chromebookを持ち帰って課題に取り組めるようにするための、校内のきまりの整備。
○アンケートの実施	・授業アンケートや生活アンケートを通じた、生徒の実態把握と授業等の改善。